

吸着型血液浄化器レオカーナ®の使用経験

医療法人衆和会 長崎腎病院

○稲田さくら 林田征俊 矢野利幸 高木伴幸 伊達雅浩 澤瀬健次 橋口純一郎 船越 哲

【背景】包括的高度慢性下肢虚血(Chronic Limb-Threatening Ischemia:以下、CLTI)患者は下肢切断率が高く、生命予後は不良である。2021年、LDL-C・FIBを選択的に吸着・除去する吸着型血液浄化器レオカーナ®がCLTIの補助療法として保険収載されたが、その治療効果の報告は少ない。

【目的】今回、CLTI患者2症例にレオカーナ®を使用する機会を得たので報告する。

【症例1】59歳男性。右足趾潰瘍、黒色壊死を伴うCLTIにて右浅大腿動脈、膝下動脈の高度狭窄、閉塞を認める。

【症例2】68歳男性。右足趾潰瘍、黒色壊死を伴うCLTIにて右膝下動脈、足背動脈、腓骨動脈の高度狭窄、閉塞を認める。

【方法】週2回、2時間/回のレオカーナ®を使用した血液吸着療法を24回施行した。血液流量は50～100ml/min、臨床症状で適宜調整した。評価項目は潰瘍径の計測、血液検査、皮膚組織灌流圧検査(SRPP)を実施した。

【結果】治療前後で足趾の黒色壊死組織の縮小、疼痛の緩和が認められた。LDL-C、FIBは低下傾向であった。SRPP値に変化は認められなかった。

【考察】今回、レオカーナ®を施行した2症例では、潰瘍の縮小、疼痛の緩和が認められ、CLTIの補助療法として有用である可能性が示唆された。今後、適応症例には積極的にレオカーナ®を施行し、更なるCLTI補助療法としての評価を行いたい。